

介護療養型医療施設におけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ

介護療養型医療施設入所者のうち、18.3%の者はたんの吸引を必要とし、38.3%の者は胃ろう・経管栄養を必要としている。

入所者全体に対する医療処置別の処置を受けた入所者(延べ人数)の割合

処置		割合(%)	処置	割合(%)
喀痰吸引		18.3	点滴	8.9
			膀胱カテーテル	8.1
胃ろう・ 経管栄養	胃ろう 18.5%	38.3	酸素療法	3.0
	経管栄養 19.8%		じょく瘡の処置(Ⅲ度以上)	2.9
			ネブライザー	2.7
服薬		87.2	疼痛管理	2.1
			気管切開	1.5

資料出所)厚生労働省「平成19年介護サービス施設・事業所調査」

(参考) 介護療養型医療施設の数: 2,106

介護療養型医療施設の入所者数: 9.5万人

※ いずれも、介護給付費実態調査月報(平成21年5月審査分)より

特別養護老人ホームにおけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ

特別養護老人ホーム入所者のうち、5.3%はたんの吸引を必要とし、9.9%は胃ろう・経鼻経管栄養を必要としていると考えられる。

特別養護老人ホーム在所者の施設内での処置の実施率(2,946施設中)

回答のあった2946施設中

入所者全体に対する医療処置別の処置を受けた入所者(延べ人数)の割合

N=200,644(人数)

処置		割合(%)	処置	割合(%)
吸引	咽頭手前までの 口腔内 *4.4%	5.3	創傷処置	4.6
	鼻腔 *2.6%		浣腸	3.7
	咽頭より奥又は気切 *1.6%		摘便	3.7
胃ろう・経鼻経管 栄養	胃ろうによる栄養 管理 7.7%	9.9	じょく瘡の処置(I度・II度)	2.7
	経鼻経管栄養 2.2%		膀胱(留置)カテーテルの管理	2.7
服薬管理(麻薬の管理を除く)		74.6	インスリン注射	1.3
			疼痛管理(麻薬の使用なし)	1.1

※この表は入所者全体に対して実施された入所者の割合が1%以上の医療的ケアを抜粋

*:吸引の実施部位間での重複がある

資料出所) (株)三菱総合研究所「特別養護老人ホーム利用者の医療ニーズへの対応のあり方に関する調査研究」

(参考) 特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)の数:6,167

特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)の入所者数:43.6万人

※ いずれも、介護給付費実態調査月報(平成22年4月審査分)より

介護老人保健施設におけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ

介護老人保健施設入所者のうち、3.0%はたんの吸引を必要とし、6.8%は胃ろう・経管栄養を必要としていると考えられる。

入所者全体に対する医療処置別の処置を受けた入所者(延べ人数)の割合

N=285,265(人数)

処置		割合(%)	処置	割合(%)
喀痰吸引		3.0	点滴	3.3
			疼痛管理	2.7
胃ろう・経管栄養	胃ろう 4.0%	6.8	膀胱カテーテル	2.5
	経管栄養 2.8%		じょく瘡の処置(Ⅲ度以上)	1.0
服薬		82.7	酸素療法	0.8

※この表は入所者全体に対して実施された入所者の割合が1%以上の医療的ケアを抜粋(「その他」は除く)

資料出所)厚生労働省「平成19年介護サービス施設・事業所調査」

(参考) 介護老人保健施設の数:3,671

介護老人保健施設の入所者数:32.9万人

※ いずれも、介護給付費実態調査月報(平成22年4月審査分)より

居宅サービス（要介護高齢者等）におけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ

居宅サービス利用者である要介護高齢者等のうち、2.9%はたんの吸引を、3.6%は経管栄養を必要としていると考えられる。

全体に対する医療処置別の処置を受けた利用者(延べ人数)の割合

N=12,598

(回答のあった介護支援専門員456名が担当する利用者の数)

処置		割合(%)	処置	割合(%)
吸引	口腔内 *2.5%	2.9	酸素療法	2.1
	鼻 *1.3%		じょく瘡処置(I・II度)	2.0
	咽頭以降気管切開 *0.9%		インシュリン	2.0
経管栄養	胃・腸・食道ろう 3.2%	3.6	創傷処置	1.2
	経鼻 0.4%		人工肛門	1.2
膀胱留置カテーテル		2.4	点滴	1.1

※この表は居宅サービス利用者全体に対して実施された居宅サービス利用者の割合が1%以上の医療的ケアを抜粋(「その他」は除く)

※この調査では、「服薬管理」が医療処置の選択肢として提示されてはいない。

*:吸引の実施部位間での重複があり得る。

資料出所)平成20・21年度厚生労働科学研究費補助金「医療依存度の高い在宅療養者に対する医療的ケアの実態調査および安全性確保に向けた支援関係職種間の効果的な連携の推進に関する検討」(主任研究者 川村佐和子)

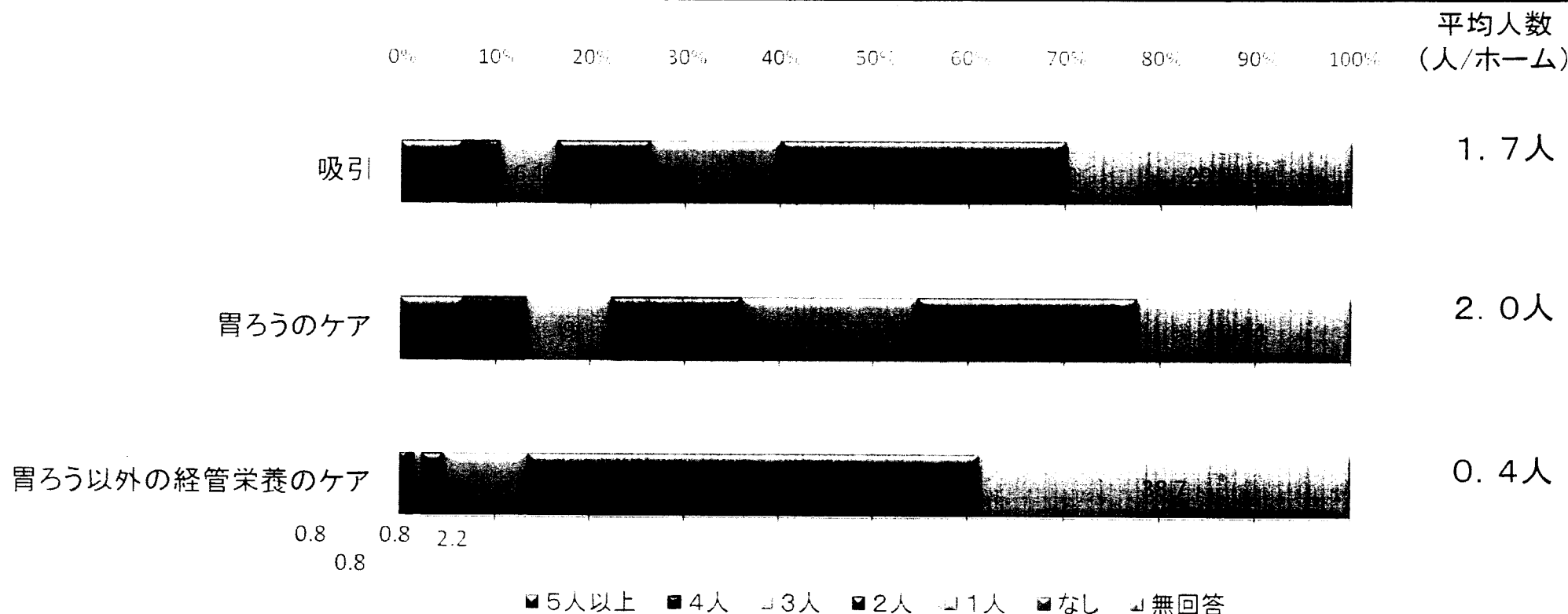
(参考) 居宅サービスの利用者数:216.0万人

介護予防居宅サービス:82.5万人

※ 介護給付費実態調査月報(平成22年4月審査分)より

有料老人ホームにおけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ

- 吸引が必要な者が5人以上入居している有料老人ホームは全体の6.6%、胃ろうのケアが必要な者が5人以上入居している有料老人ホームは全体の6.8%となっている。
- 有料老人ホーム1カ所当たりの平均人数で見ると、吸引が必要な者は1.7人、胃ろうのケアが必要な者は2.0人、胃ろう以外の経管栄養のケアが必要な者は0.4人となっている。



調査期間 : 平成19年9月～10月

調査対象 : (社)全国有料老人ホーム協会または特定施設事業者連絡協議会の会員事業者997施設

回収数 : 589施設 (回収率59.1%)

(出典) 平成19年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)特定施設における医療サービス等の確保のあり方に関する調査研究 報告書

(参考)有料老人ホームの施設数:2,846施設 定員数:155,612人 (平成19年7月1日現在・厚生労働省調べ)

認知症グループホームにおけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ

認知症グループホーム利用者のうち、0.5%の者はたんの吸引を必要とし、0.6%の者は胃ろう・経管栄養を必要としていると考えられる。

全体に対する医療処置別の処置を受けた利用者(延べ人数)の割合

N=7,020(人)

処置	割合(%)	処置	割合(%)
痰の吸引	0.5	じょく瘡の処置	1.5
胃ろう・経管栄養	0.6	インシュリン注射	0.9
カロリー・塩分等の制限食	4.8	尿道カテーテル	0.6

※この表は入所者全体に対して実施された入所者の割合が0.5%以上の医療的ケアを抜粋(「その他」は除く)

※この調査では、「服薬管理」が医療処置の選択肢として提示されていない。

資料出所)特定非営利活動法人全国認知症グループホーム協会「認知症グループホームの実態調査事業報告書(平成20年度)」

(参考) 認知症グループホーム(認知症対応型共同生活介護)の数:10,041

認知症グループホーム(認知症対応型共同生活介護)の利用者数:14.5万人

※ いずれも、介護給付費実態調査月報(平成22年4月審査分)より

障害者支援施設等入所施設におけるたんの吸引・経管栄養に対するニーズ

障害者支援施設等入所施設入所者のうち、0.6%～1.1%はたんの吸引を、2.1%は経管栄養を必要としていると考えられる。

○ 障害者支援施設等入所施設(※)の入所者全体に対する、医療的ケアの必要な入所者数(実人数)の割合(処置の種類別)

※ 内訳:障害者支援施設(387)、身体障害者更生施設(31)、身体障害者療護施設(190)、身体障害者入所授産施設(46)、知的障害者入所更生施設(433)
知的障害者入所授産施設(69)、施設種別無回答(18)(複数種一体運営あり)

回答のあった1170施設中 N=85,028(入所者数)

処置		割合(%)	処置	割合(%)
吸引	咽頭手前までの口腔内	1.1	服薬管理(麻薬の管理を除く)	43.6
	鼻腔	0.6	浣腸	4.5
	咽頭より奥または気管切開	0.6	膀胱(留置)カテーテルの管理	2.1
胃ろう・経鼻経管栄養	胃ろうによる栄養管理 1.8%	2.1	排便	2.0
	経鼻経管栄養 0.3%		創傷処置	1.7

※ この表は入所者全体に対して実施された入所者の割合が1%以上の医療的ケアを抜粋(たんの吸引・経管栄養を除く)

資料出所)三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「障害福祉サービスの質の向上を目指すための調査研究」

(参考) 障害者支援施設等入所施設の数:2,492 障害者支援施設等入所施設の入所者数:13.7万人

※ いずれも、国保連データ(平成22年2月分)より

特別支援学校医療的ケア実施体制状況調査結果（まとめ）

（平成21年5月1日現在の状況）

(1) 対象幼児児童生徒数

区分	医療的ケアが必要な幼児児童生徒数(名)				
	幼稚部	小学部	中学部	高等部 ^{※1}	合計
通学生	45	2,551	1,223	1,142	4,961
訪問教育 (家庭)	0	587	276	217	1,080
訪問教育 (施設)	0	173	81	149	403
訪問教育 (病院)	0	258	119	160	537
合計	45	3,569	1,699	1,668	6,981
在籍者数 (名) ^{※2}	1,523	34,254	26,081	50,000	111,858
割合(%)	3.0%	10.4%	6.5%	3.3%	6.2%

※1 高等部の専攻科は除く。

※2 平成21年度学校基本調査による。

(3) 対象幼児児童生徒数・看護師数等の推移

対象等 年度	医療的ケア対象幼児児童生徒		看護師数(名)	教員数(名)
	在籍校数(校)	幼児児童生徒数(名)		
17年度	542	5,824	597	2,769
18年度	553	5,901	707	2,738
19年度	553	6,136	853	3,076
20年度	580	6,623	893	3,442
21年度	622	6,981	925	3,520

(2) 行為別対象幼児児童生徒数

医療的ケア項目		計(名)
栄養	●経管栄養（鼻腔に留置されている管からの注入）	2,355
	●経管栄養（胃ろう）	1,979
	●経管栄養（腸ろう）	116
	経管栄養（口腔ネラトン法）	99
	I V H中心静脈栄養	58
呼吸	●口腔・鼻腔内吸引（咽頭より手前まで）	2,872
	口腔・鼻腔内吸引（咽頭より奥の気道）	2,011
	経鼻咽頭エアウェイ内吸引	123
	気管切開部（気管カニューレより）からの吸引	1,813
	気管切開部の衛生管理	1,635
	ネブライザー等による薬液（気管支拡張剤等）の吸入	1,577
	経鼻咽頭エアウェイの装着	153
	酸素療法	978
	人工呼吸器の使用	720
排泄	導尿（介助）	417
その他		723
合計(延人数)		17,629
医療的ケアが必要な幼児児童生徒数		6,981

※ ●は教員が行うことを許容されている医療的ケア項目である。

出典：平成21年度特別支援学校医療的ケア実施体制状況調査